

ざんねん・・・



生きものを安易に野外に放流することは、「環境破壊」のリスクが高いんばい。

生きものが減っている理由の多くは、
生息環境の悪化。

生きものたちが暮らしやすい生息環境
を整えるように努めることが大切っぱ。

むやみな放流のリスク

リスク	説明	画像
「外来種の侵入」	アユなどの放流の際に紛れ込み外来種が侵入した事例もあります。 また、琵琶湖地域に生息する一部のノゴイを除いて、国内に生息するコイのほとんどは「外来種」です。 コイは生態系への悪影響や、水質悪化を招く恐れがあり、自然河川への放流で「生物多様性」が失われる恐れがあります。	
「遺伝子のかく乱」	同じ種類の生きものでも、地域によって遺伝子の個性が異なります。 他地域の生きものを放流することで、「遺伝子のかく乱」を招き、その地域固有の財産でもある生物群を失うことにもつながります。	
「病気の蔓延」	同じ種類の生きものでも、地域によって病原菌への耐性や、保有する寄生虫が異なったりします。 安易に他地域の生きものを放流すると、耐性のない病原菌や寄生虫などが蔓延する恐れがあります。	